

## 精神保健・福祉に関するエビデンスのプラットフォーム構築及び 精神科長期入院患者の退院促進後の予後に関する検討のための研究

研究代表者 佐藤さやか（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所）

### 要旨

本研究の目的は国内の実践家が効果的な実践を行うための支援として、1) 精神保健福祉サービスの効果等についてのエビデンスの収集及び分類、専門的知見を介した信頼性等の評価、2) 国内外の調査・研究等のシステマティックレビュー（Systematic review：SR）の実施、3) 1)2)の結果等を容易に入手可能な日本語プラットフォームの構築、を行うことであった。

中西分担研究班では、PRISMA 声明（2009）に従って、精神科長期入院患者の退院促進後の予後に関するシステマティックレビューを行い、最終的に英文4編、和文3編がシステマティックレビューに組み入れとなった。これらの文献について ROBINS-I にもとづく risk of bias 評価およびデータ抽出を行った。

藤井分担研究班では、昨年度実施したグループインタビューで得られた意見を踏まえて、普段研究になじみのない人にとってもわかりやすいエビデンスの伝え方を目指し、Web サイトのストラクチャおよびコンテンツに関する検討と実装を行った。Web サイトは「こころとくらし精神障害当事者の地域生活にかかわる研究結果紹介サイト（略称：こころら）」と命名された。

山口分担研究班では、藤井分担研究班での検討にもとづき、コンテンツ作成を行った。英国 Cochrane collaboration が運営する Cochrane library より重症精神障害者をもつ人の地域生活支援に関する心理社会的支援技法を取り上げた Cochrane review を検索し、日本語翻訳作成、支援技法や review の解説テキスト作成を行った。

2021年3月に「こころら」β版の紹介を行ったところ、当事者、家族、実践家等からおおむね好意的な評価を得た。2021年7月に全面公開を目指して、準備中である。

### A.研究の背景と目的

英国の NICE ガイドラインなど、厳密な手法でエビデンスを収集し、関係者の合意に元に定められた診療ガイドラインが国際的には医療/保健の支援現場や医療経済に大きな影響を与えるようになっている（藤井, 2016）。他方、わが国の精神保健領域においては、依然として支援者の経験則が提供される支援の根拠となっている場面が散見される。この背景に、①国内の望まし

い実践（Good practice: GP）に関する資料が広く共有されていない、②海外のエビデンスに関する情報発信が少ない、の2点があることが推察される。①については研究活動の一環としてとして展開された GP は実践家にとってはなじみが薄く、また実践家自身からの発信は事例報告が多いため、システム全体の均てん化に必要な情報に乏しい、といった要因が関係していると思われる。②については厳密な手法を用い

た研究の多くが英語の医学データベースに掲載されているため、情報のアクセシビリティに問題がある。そこで本研究では国内の実践家が効果的な実践を行うための支援として、1) 精神保健福祉サービスの効果等についてのエビデンスの収集及び分類、専門的知見を介した信頼性等の評価、2) 国内外の調査・研究等のシステマティックレビュー (Systematic review : SR) の実施、3) 1) 2) の結果等を容易に入手可能な日本語プラットフォームの構築、を行うことを目的とする。

## B.方法

### 1. 中西分担研究班

分担研究者を含む6名のレビューアーで作業チームを構成し、システマティックレビューの最新のレポートガイドラインであるPRISMA 声明 (2009) に従って、精神科長期入院患者の退院後の予後に関するシステマティックレビューを行った。

### 2. 藤井分担研究班

昨年度は、精神保健医療福祉のステークホルダーとして当事者、家族、支援者、行政職員、研究者を対象に「治療や実践のエビデンスを集めた情報サイトにどのような内容をどのように載せたらよいか?」「専門家に知っておいてほしい支援や実践とはどのようなものか」「厳密な研究によるエビデンスの確立していない支援や実践を取り扱うべきか?」という問いについてグループインタビュー (GI) を行った。

今年度は、昨年度のGIで得られた意見を踏まえた、Webサイトのストラクチャとコンテンツについて検討した。

### 3. 山口分担研究班

藤井班と協働してWebサイトのコンテ

ンツの作成を行った。

## C.結果/進捗

### 1. 中西分担研究班

検索式を用いた論文検索によって Web of science で 2,827 編、PsycINFO で 1,553 編、CINAHL で 967 編、MEDLINE で 3,983 編、医中誌で 762 編の論文がヒットした。重複を除いた 9,442 編について1次、2次スクリーニングを実施した結果、最終的に英文4編、和文2編がシステマティックレビューに組み入れとなった。これらの論文の引用文献をすべて確認し、組み入れ基準に合致した新たな和文1編を加え、合計7編についてROBINS-Iを用いRisk of bias 評価およびデータ抽出を完了した。

### 2. 藤井分担研究班

サイトのストラクチャ上の工夫点として、支援技法の名前や内容をある程度知っている支援者を想定した入り口と、治療やケアに対する関心事や疑問からサイトを閲覧する当事者や家族を想定した入り口を設け、それぞれに必要な情報に早く正確に誘導できる構造を検討した。

サイトのコンテンツとしては、中西分担研究班で実施する長期入院の予後等に関するシステマティックレビューに加えて、Cochrane review の中から、重症精神障害 (統合失調症、双極性障害、大うつ病) を対象とした地域生活支援に関する心理社会的支援に関するものを選択し、掲載すること、制度や生活支援に関する情報については既存のサイトにリンクを張ることなどを決定し、これに伴う交渉や手続きを進めた。

### 3. 山口分担研究班

英国 Cochrane collaboration の運営する

Cochrane library に掲載されている  
Cochrane review のうち、重症精神障害  
(統合失調症、双極性障害、大うつ病) を  
対象とし、地域生活支援に関する心理社会的  
的技法について検討しているレビューをハ  
ンドサーチによって選択し、これらの  
Plain language summary (PLS : 平易な  
要約) の和訳、および独自の支援技法に関  
する解説ページを作成した。加えて、選択  
した支援技法や Cochrane review を解説  
するにあたり必要と思われる、概念や専門  
用語について Q&A 方式のページを作成し  
た。

#### D. 考察

中西分担研究班について、PRISMA 声  
明 (2009) に従ってシステムティックレビ  
ューのプロセスをほぼ完遂した。現在英文  
誌への投稿準備中である。

本研究課題で実施したシステムティック  
レビューで最終的にデータ抽出まで至った  
論文の過半 (7 編中 4 編) は海外での研究  
データに関するものである。これまで日本  
では入院を前提とした精神保健医療福祉シ  
ステムが構築されてきた。このため脱施設  
化が完了し、地域生活支援を前提としてい  
る海外データと国内事情の比較が容易でな  
い期間が長く続いていた。しかし 2018 月  
4 月より開始している第 7 次医療計画およ  
び第 5 次福祉計画では「精神障害にも対応  
する地域包括ケアシステム」の構築が謳わ  
れており、我が国は脱施設化前夜の状態と  
言える。こうした状況下において、海外で  
脱施設化後にどのようなデータが得られた  
のかを知ることは時宜を得ており、一定の  
意義があるものと思われる。

藤井、山口分担研究班について、コンテ  
ンツ作成に当たっては、研究者になじみの  
ある概念、用語、考え方など実践家をはじ  
めとする、普段研究との接点がそれほど多

くない人にいかにわかりやすく伝えるかと  
いうことに工夫が必要であり、困難を感じ  
る局面もあった。しかし、Web サイトβ版  
を 2021 年 3 月に実施したオンライン報告  
会にて、前年度にグループインタビューに  
参加したステークホルダーを中心に紹介し  
たところ、終了後の参加者アンケートでは  
概ね好意的な評価を得た。

完成した Web サイトの公開は 2021 年 7  
月を予定している。

#### E. 健康危険情報

なし

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

佐藤さやか・五十嵐百花・川口敬之・山口  
創生 ころとくらし (略称こくら)  
WEB サイトのご紹介. TOGETHER &  
こくら 研究成果報告会 2021 年 3 月  
20 日.

#### G. 知的財産権の出願・登録状況

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし